

奈良県三郷町の都市公園

北 畠 潤 一

I. は じ め に

わが国における都市公園は明治政府成立後、欧米の近代都市計画の導入によって、都市のオープンスペースの一形態として存立してきた。また、初めて制度的に認められた公園が成立したのは、1885年の太政官布達第16号によってであり、都市計画の中で制度的・機能的に、今日いうところの都市公園が成立するのは、1919年の都市計画法の制定によるが、都市公園が本格的に整備されるようになったのは、1956年の都市公園法の制定以降のことである（橋詰，1980）。

本研究でいう都市公園とは都市公園法に定められたもので、設置主体は国又は地方公共団体である。奈良県三郷町（以下、三郷町）の都市公園一覧表によれば、1993年現在、町域内には三郷町が設置した38か所の都市公園がある。都市公園法によると都市公園はその設置方針により、10種別⁽¹⁾が定められているが、三郷町にある都市公園は児童公園・地区公園・緑地⁽²⁾の3種類のうちのいずれかである。三郷町で最初の都市公園が創設されたのは、1976年度である。この時期は1960年代から始まった住宅地開発に伴う都市化が確実に軌道にのった頃であったと考えられる。そして、それ以来現在に至るまで、三郷町の都市公園は都市化の進展とともに漸増を続けてきた。町域内の都市公園のなかで、その面積が最小のものは 85.0 m² の南畑児童公園であり、最大のものは 36,180.1 m² の龍田運動公園（地区公園）であって、後者は前者の面積の約426倍である。1993年現在、三郷町にある全都市公園面積は 131,078.61 m² であり、1か所平均面積は約 3,449.44 m² であるが、1993年3月における三郷町の都市公園計画決定面積

（1） 児童公園・近隣公園・地区公園・総合公園・運動公園・広域公園・特殊公園・緩衝緑地・都市公園・緑道の10種である。（都市計画法研究会編『都市計画法令要覧』ぎょうせい，1982年，第2節「都市公園法」904～906ページ）。

（2） 都市公園の種別ごとの設計指針によれば、児童公園は「児童の遊戯，運動等の能力に応じた各種の遊具，自由な行動のための広場等を中心に設計し，必要に応じ，児童自ら遊びを創造し得るよう配慮した施設または空間および保護者のための休養施設を確保するものとする」と。地区公園は「地区住民の身近なスポーツを中心としたレクリエーション施設を主体に，休養施設，修景施設等を有機的に配置するものとする」と。緑地には緩衝緑地と都市緑地があるが，三郷町にあるものは後者であり，「都市内の自然的な環境の保全・改善および都市景観の向上に役立つよう植栽地を主体に配置するものとする」とある。（都市計画法研究会編『都市計画法令要覧』ぎょうせい，1982年，第2節「都市公園法」905～906ページ）。

は、 $224,531.99\text{ m}^2$ であるから、現存の都市公園面積と都市公園計画決定面積を比べると、 $93,453.38\text{ m}^2$ の差で都市公園計画決定面積が大きい。各都市公園の計画決定面積と現存の都市公園面積の差が最も大きいものは、町域内で最大の都市公園計画決定面積をもつ大和川第2緑地（大和川河川敷）で、その値は $126,262.14\text{ m}^2$ であり、1993年3月現在では計画決定面積の3.6%が完成したに止まっている。

一般に都市公園は良好な都市環境を形成し、公害を緩和するとともに、災害時の避難場所や避難路として重要な機能をもっている。また、スポーツ・文化活動などに対する多様な需要に応えるために不可欠なオープンスペースであり、都市の大小を問わず、いずれの都市においても基幹的な公共施設の1つである。平成4年の環境白書によれば、都市公園等については、「都市公園等整備緊急措置法」に基づき都市公園等整備5箇年計画を策定し、計画的整備を推進してきたが、1992年現在、その整備状況は計画対象人口1人当たり都市公園等面積 5.6 m^2 にとどまっている。このため、今後とも都市公園等に対する社会的要請に的確に対処しつつ計画的に整備を推進することが必要であるとしている。さて、1993年4月1日現在、三郷町の人口は23,303人である（住民基本台帳）。そして都市公園面積は $131,078.61\text{ m}^2$ であるから、人口1人当たりの都市公園面積は約 5.62 m^2 であり、ほぼ全国平均値と一致している。さらに、この三郷町の1人当たり都市公園面積の値は奈良県北西部に位置する生駒市の1人当たりの都市公園面積の 4.93 m^2 （全国市長会編『日本都市年鑑』、1992年より試算）や、奈良市の 5.07 m^2 （奈良市『奈良市の公園・緑地』、1988年）に比較して、三郷町の都市公園の整備状況が立ち遅れているものではない。加えて、三郷町の都市計画公園決定面積のうちの未完成部分、たとえば大和川第2緑地（大和川河川敷）などが完成すれば、近年、流域の公共下水道・浄化施設整備が進み、次第に自然の水質を復元しつつある大和川河畔に、都市公園施設を備えた緑豊かな美しい親水空間が実現することであろう。

さて、わが国でも高度成長の最盛期であった1960年頃から、環境開発と保全への関心が従来にも増して高まった。そして1970～1980年代になると、環境諸科学の興隆とともに地理学の分野でも地球環境問題が注目されるようになり、地球環境問題の元凶は先進国の都市であるといわれて、都市環境やアメニティ都市についても議論が起き、その研究成果が発表された。いま、その中から本研究に関係があり、比較的新しい、1980年代以降の研究のいくつかをあげれば、橋詰（1980）は東京都の都市公園の整備・発達過程を時間・空間的に把握し、都市公園分布のもつ空間構造の規則性を因子回帰分析を用いて検討し、都市公園整備の社会・経済的背景を考察した。また、橋詰（1983）は千葉県八千代市の都市化に伴う緑地減少と市の緑地保全政策の

（3） 1991年度は第5次都市公園等整備5箇年計画（総投資額5兆円（うち調整費8,200億円）、うち一般公共事業費2兆2,300億円、整備目標1995年度末1人当たり約 7.0 m^2 （計画総額ベース約 7.1 m^2 ））の初年度として、国費1,195億7,600万円（一般公共事業費3,023億円）をもって都市公園等の積極的な整備の推進を図った。（環境庁編『環境白書・各論』大蔵省印刷局、1992年、「都市公園等の整備」、225ページ）。

実態を調査し、中島（1986）は市街地に残された樹木の樹種・形態・位置・配列から、樹木景観の特徴と地域性をみだし、都市化に伴う樹木の減少とその理由ならびに都市環境・景観への影響から、将来の都市景観の変化と保全の方向性を追究した。橋詰（1987）は千葉県の都市化進行地域を対象に、自治体による緑地保全政策の実施状況の分析を通して、新たな政策による緑地の恒久的存続が実現するに至った経過とその社会・経済的背景を市川市・我孫子市を事例として明らかにした。千歳（1987）は都市の土地利用を研究対象とする諸科学のうち、1950年代以降の都市計画学における研究成果について、その内容・方法などを調べ、研究の推移と実態を把握し、分類・整理を試みて、わが国の都市計画学における土地利用研究を展望した。そして1992年度日本地理学会秋季学術大会シンポジウムでは、大規模公園緑地の熱環境（三上ほか、1993）、緑地の役割とアメニティ（福岡、1993）、緑化行政（斎藤、1993）、都市緑化（中島、1993）などが報告された。⁽⁴⁾以上の先行研究は大・中規模都市を研究対象地域とし、主として都市公園の分布とその整備の社会・経済的背景、都市の緑地保全、都市環境と樹木景観、公園緑地と都市気候、都市環境と緑地、都市の緑地行政などに関するものである。本研究ではそれらの研究成果に基づき、人口23,303人、面積862.0 haの小都市である三郷町を研究対象地域として、その都市公園整備と分布の地域的特性に接近した。

研究対象地域はキノコ形で、広がり東西5.67 km、南北3.50 kmである。相対位置は奈良市へ25.0 km、大阪市へ34.0 kmであり、時間距離はJR西日本大和路線の三郷駅から、普通電車で奈良駅へ24分、大阪の南の結節点である天王寺駅へは27分間である。また、近鉄生駒線の勢野北口駅・信貴山下駅より奈良駅へ約40分、大阪の難波駅へは1時間程である（1993年7月、王寺駅調べ）。行政区は三郷町の北側に奈良県生駒郡平群町（以下、平群町）、東側には斑鳩町、南は大和川を隔てて北葛城郡王寺町（以下、王寺町）、西は生駒山地を境界にして、大阪府八尾市（以下、八尾市）と柏原市に隣接している。大阪の東郊に位置する三郷町は、高度成長期を中心にして住宅地化が急進し、衛星都市的性格を強めてきた。その結果、過去31年間に人口は3.52倍に急増し、全世帯数8,041世帯のうち、転入・転居世帯率は82.6%に達した。そして1956年には4.66人であった1世帯当たり人口は、1993年4月1日現在2.90人に急減しており、核家族化が著しい（住民基本台帳）。本研究では三郷町における都市公園整備過程と分布について、1975～1993年度の間を4つの時期区分にしたがい、市街化区域の用途地域、市街

（4）『地理学評論』第66巻（Ser. A）第3号、1993年3月）169～172ページには、三上岳彦・浜田宗の「東京都市部における大規模公園緑地の熱環境」、福岡義隆の「都市における緑地の役割とアメニティ」、斎藤昇喬の「仙台市の緑化行政について——緑の保全と創出——」、中島直子「シンガポールの都市緑化」などの発表要旨が掲載されている。

（5）urbanization promotion area 都市計画法で定められた区域のひとつである。既に市街地を形成している土地と、今後10年以内に計画的優先的に市街化をはかるべき土地からなる。1968年の新都市計画法で決められた。市街化区域では都市の整備・開発を優先し、集中的な公共投資が行なわれる。（日本地誌研究所『地理学辞典』二宮書店、1974年、284ページ）。

(6) 化調整区域・D I D区域などとの関係、および地域別の都市公園面積、事例の施設・樹木そして周囲の環境などを調査し、急速な都市化によって衛星都市化した小都市の都市公園整備と都市化地域の間に存在する地域的性格の一端を解明した。研究方法は基礎的資料として、三郷町の備品である公園台帳・建築物工作物調書・占用物件調書・樹木調書・照明灯台帳・都市公園一覧表（いずれも1990年9月13日現在）、および三郷町が1988年2月に作成した、縮尺1万分の1『三郷町都市公園位置図』を使用し、1993年4月より10月までの現地調査結果を加えて、作図と分析を実施し、研究の目的を達成した。

II. 都市公園整備過程と分布

都市公園整備はわが国の都市整備の動向と不可分である。1980年、居住環境を保全・整備する必要がある比較的小範囲の地区について、一般の建築制限よりもきめの細かい制限を課し、同時に道路や公園などを地区の特性に適合するように整備する制度として、地区計画が法制化され、都市計画法に追加された（千歳，1987）。そのために都市整備は都市の居住環境のアメニティが注目され、都市公園・緑地・オープンスペース・水辺などをもつ、住みよくて美しいまちづくりが住民ニーズとしても表面化してきた。三郷町の都市公園整備もこのようなわが国の都市整備の動向とともに進展した。

1. 第1期（1975～1979年度）の都市公園整備

1970年代後半である第1期には、三郷町に8か所、延べ面積 8,186.36 m² の都市公園が完成した（表1）。そして、三郷町で最初に完成した都市公園はその中の6か所であり、それら

表1 三郷町の時期別都市公園設置数・面積

時 期	設 置 数	面 積 (m ²)	1 か所平均面積 (m ²)
第 1 期 ^a	8	8,186.36	1,023.30
第 2 期 ^b	6	8,180.04	1,363.34
第 3 期 ^c	11	35,710.17	3,246.38
第 4 期 ^d	13	79,002.04	6,077.08
合 計	38	131,078.61	3,449.44

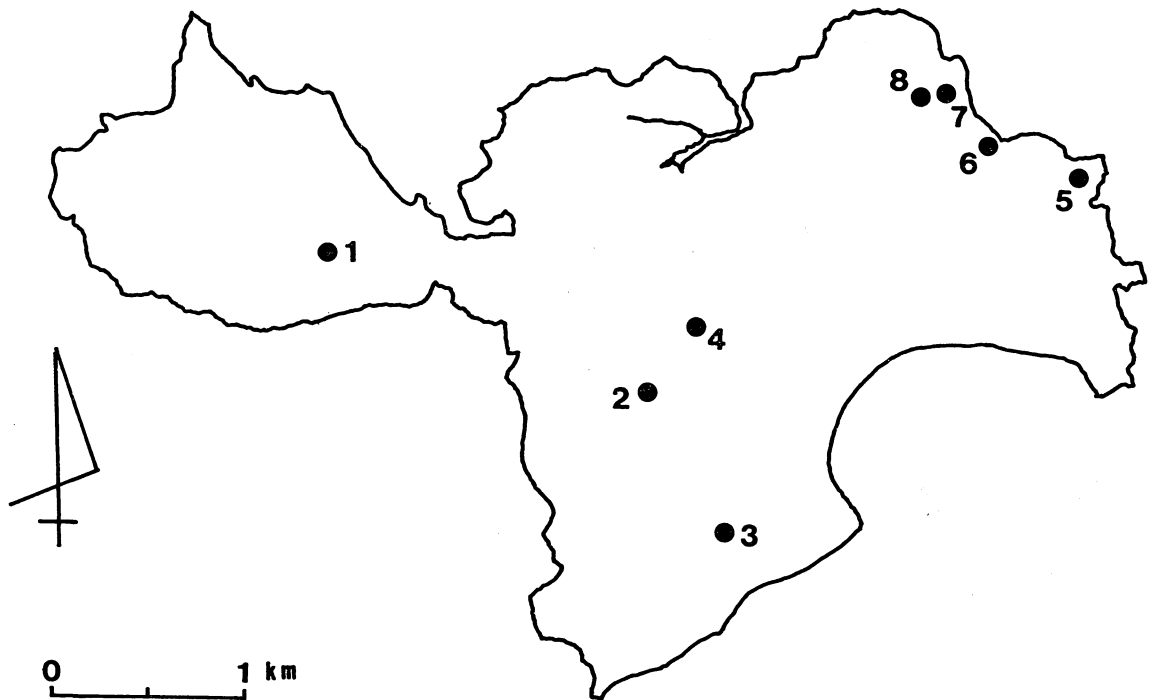
注) a. 1975～1979年度 b. 1980～1984年度 c. 1985～1989年度 d. 1990～1993年度
資料) 三郷町『都市公園一覧表』（1992年度修正）および現地調査により作成。

(6) D I Dは densely inhabited district の略であり、人口集中地区である。1960年国勢調査以降、新たに設定された統計表章地域で、1953年の町村合併促進法および1956年の新市町村建設促進法の施行により市町村の境域が拡大したが、その内部における人口の密集した地区を区画するために、人口集中地区が設定された。国際調査では1人の調査員が受け持つ区域として、調査区（約50世帯）を設定しているが、人口集中地区の基準はこの調査区を単位として、原則としては調査区の人口密度が1km²につき4,000人以上あり、そのような調査区が互いに隣接して、その合計人口が5,000人以上に達する場合に、これをひとつの人口集中地区として区画する。この人口密度基準から考えて、人口集中地区は実質的に市街地を形成する区域を表わすといえる。（日本地誌研究所『地理学辞典』二宮書店，1974年，346ページ）。

は1976年度の1か年間に設置されたものである。そして残る2か所は1979年度に完成された。第1期に整備された8か所の都市公園の中には、遊園地という通称をもっているものもあるが、正式には総て児童公園である。第1期における都市公園分布(図1)をみれば、三郷町の北東部の平群町・斑鳩町に接近する位置に4か所の都市公園がある。それらはいずれも1960~1970年代の住宅地化に伴って1976年度に整備されたものであるが、各都市公園について所在地・公園名・種別・用途地域・面積などを示せば、美松ヶ丘東2-3-27の美松ヶ丘第2児童公園は法的にいう種別が児童公園であり、用途地域内の建物の用途制限が最も厳しく、建ぺい率50%、容積率80%、高さ制限10m、防火・準防火地域は無指定であるが、用途地域内は住宅・共同住宅・寄宿舍・下宿、幼稚園・小学校・中学校・高等学校、図書館・博物館、神社・寺院・教会、養老院・託児所・公衆浴場・診療所以外の用途には特別の許可を受けない限り使用できない第1種住居専用地域のD I D区域内に位置していて、その面積は1,017.13 m²である。美松ヶ丘西2-8-15の美松ヶ丘第3児童公園も児童公園で、第1種住居専用地域のD I D区域内にあり、面積は1,629.00 m²である。夕陽ヶ丘11-22の夕陽ヶ丘児童公園も児童公園に属し、第1種住居専用地域のD I D区域内にあって、面積は361.57 m²と小規模なものである。東信貴ヶ丘3-1-20の東信貴ヶ丘児童公園も児童公園で、第1種住居専用地域のD I D区域内にあり、面積は303.58 m²でやはり小規模である。また、三郷町の中央部には2か所の都市公園がある。これはこの地域の1970年代の住宅地化の進展に伴って、1979年度に完成されたもので、1つは城山台2-10-6にある城山台第2児童公園であり、種別は児童公園であって第1種住居専用地域のD I D区域内に位置し、面積は2,102.57 m²である。そして城山台4-4-13の城山台第4児童公園も第1種住居専用地域のD I D区域内にある面積2,360.91 m²の児童公園である。三郷町の南部の大和川右岸の立野南1-29-1には1976年度に完成した馬場⁽⁷⁾児童遊園地がある。この遊園地の種別は児童公園であり、市街化調整区域のD I D区域内に設置されていて、面積は326.60 m²と小規模である。三郷町の西部の信貴南畑1-2-77に1か所だけ飛地的に設置されているのは、1976年度に完成した南畑児童公園であり、種別は児童公園で市街化調整区域に位置し、第1期に整備された8か所の児童公園のうちでこの児童公園だけがD I D区域外にある。そして面積は85.00 m²の極小規模なものである(図1)。

さて、三郷町の都市公園の1か所当たり平均面積は3,449.44 m²であるが、第1期に整備された都市公園のそれは1,023.30 m²であり、第3期以後、すなわち1980年代後半以降に整備

(7) urbanization control area 都市計画法で定められた区域のひとつで、市街化を当面抑制すべき区域をいう。1968年につくられた新都市計画法のなかで、都市周辺の無秩序な市街化を防ぎ、計画的な市街化を図るため、都市計画区域を市街化区域と市街化調整区域に分けることが必要となった。市街化調整区域は市街化の動向や都市施設の整備の見通しから、市街化するのが不適当な地域、災害のおそれのある地域、農用地として保存すべき地域、自然環境の保全を図るべき地域などを原則的に含むことになっている。市街化調整区域に指定されると当分の間は集中的な公共投資が行なわれず、宅地造成も抑制され、農地の転用も困難となる。(日本地誌研究所『地理学辞典』二宮書店、1974年、284~285ページ)。



注) 1. 南畑児童公園 2. 城山台第4児童公園 3. 馬場児童遊園地 4. 城山台第2児童公園 5. 夕陽ヶ丘児童公園 6. 東信貴ヶ丘児童公園 7. 美松ヶ丘第2児童公園 8. 美松ヶ丘第3児童公園
資料) 三郷町『三郷町都市公園位置図』1万分の1 (1988年) および現地調査により作成。

図1 三郷町における第1期(1975~1979年度)の都市公園分布

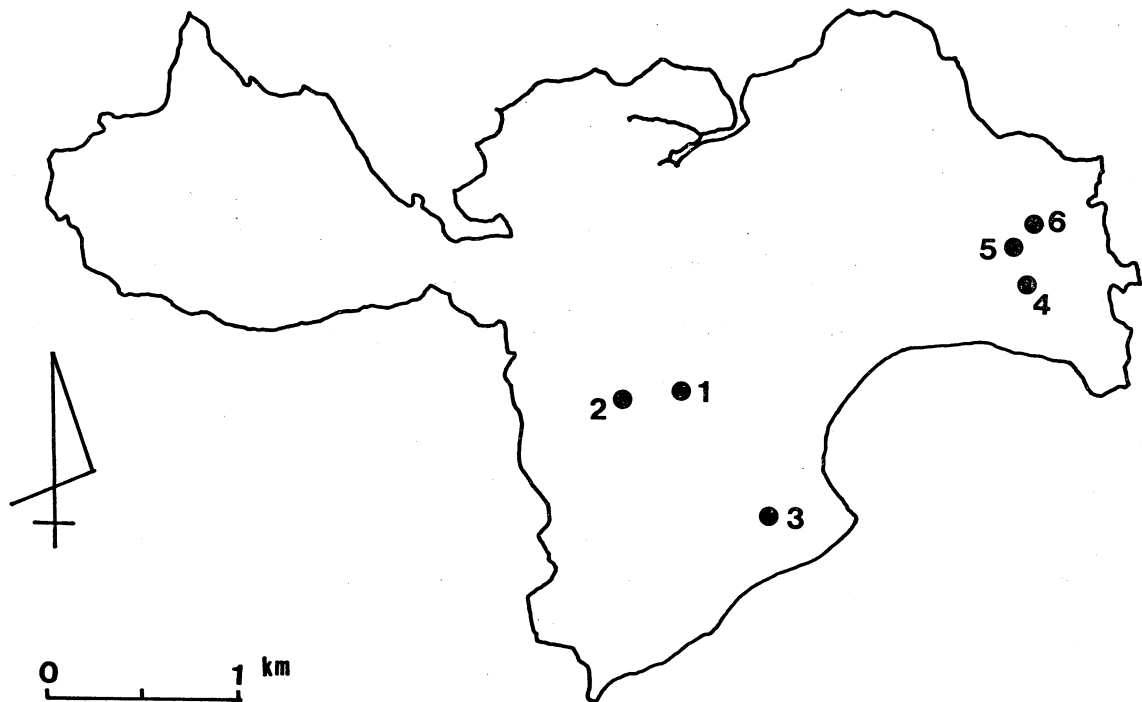
された都市公園よりも比較的小規模である(表1)。また、第1期に完成した8か所の児童公園のうち、6か所は新しい住宅地化地域に位置しており、近代的な住宅都市的景観をもった第1種住居専用地域のDID区域内にあるが、その中でも1976年度に完成した4か所は、1か所当たりの都市公園の平均面積が300~1,000 m² 規模であり、あとの2か所は2,000 m² である。そして残る2か所の児童公園は極小規模か比較的小規模なものであって、ともに市街化調整区域に設置されており、南畑児童公園は周囲の針広混交樹林が美しく、山村の景観をとどめた環境にある。一方、馬場児童遊園地は神前橋の西詰の大和川河畔に位置し、幅員12mの街路樹をもつ都市計画道路(三郷川添線)の沿道にのびる親水空間に接する良好な場所を占めている。第1期に整備された8か所の都市公園を見れば、初期の1976年度に設置されたものは面積1,000 m² 以下の小規模なものであり、後期の1979年度に設置されたものの面積は2,000 m² 以上になっていて、三郷町の都市公園の整備は次第に大型化する傾向を示した。

第1期に整備された三郷町の都市公園の環境をみると、美松ヶ丘第2児童公園はその西側に隣接する美松ヶ丘第3児童公園とともにほぼ長方形で、1993年現在、三郷町の都市化地域の最北端に位置していて、東へ150m、北へ200m程で平群町となる。美しい街路樹と歩道をもつ都市計画道路信貴山麓線は、これら2つの児童公園の北側を東西方向に通じ、その東端の平群町との境界線付近は、将来この道路が東へ延長される位置を塞ぐように建設資材置場があり、

道路工事は中断されている。地形は北高南低の傾斜地で、閑静な整然とした1戸建住宅地の標高 63.0 m 地点にある。そして北方 50 m の日向斜面にはブドウ園が広がり、西方 100 m には町立三郷北小学校や今池がある。東信貴ヶ丘児童公園は近鉄生駒線の東に隣接し、平群町との境界線に近い標高 63.0 m にある極小規模な長方形の都市公園である。そして鉄道線が通る南北方向の谷底部に面していて、北は針葉樹林、南は普通畑、東は1戸建住宅地である。夕陽ヶ丘児童公園も極小規模なもので三郷町の東端にあり、平群町・斑鳩町との境界に近く、南北にやや長い五角形で、東高西低の傾斜地の1戸建住宅地の中の標高 67.0 m 地点に位置している。城山台第2児童公園は城山台団地の北部にあり、都市計画道路信貴山麓線沿線の万葉荘園の南東部に隣接していて、西高東低の傾斜地の標高 122.0 m に位置し、ほぼ三角形で東側には墓地があり、一部に宅地造成後も家屋が建築されていない空洞化現象が認められる。しかしおおむね1戸建住宅地の中にあるといえる。城山台第4児童公園は城山台団地の西部の西高東低の傾斜地の標高 135.0 m 地点にある。南北に長い長方形であるが、北・西辺が曲線状であり、周囲は総べて区画整然とした1戸建住宅地である。馬場児童遊園地は西高東低の傾斜地の標高 60.0 m にあり、龍田大社の大鳥居の前で駐車場・中層耐火建築物・神域の間に位置し、針葉樹と広葉樹など混交樹の木立があり、東西に長い長方形である。南畑児童公園は三郷町西部のとっくり湖の北西湖岸から北方 100 m 程の標高 280.0 m 地点に位置し、針広混交樹林の中の旧路村集落的景観のなかにあり、果樹園・普通畑・タケ林が背景となっている。

2. 第2期(1980～1984年度)の都市公園整備

1980年代前半である第2期の5か年間において三郷町で整備された都市公園は6か所である。その延べ面積は 8,180.04 m² であり、都市公園1か所平均面積は 1,363.34 m² となる。したがって第1期に整備された都市公園に比較して、設置数は2か所減少したが、この時期に整備された都市公園の延べ面積は第1期とほぼ同じであることから、1か所当たりの都市公園面積は 340.04 m² だけ広がった(表1)。第2期に整備された都市公園の中には公園名としては広場・遊園地などの通称名をもつものがあるが、正式の種別は6か所とも児童公園に分類されるものである。都市公園分布(図2)をみれば、三郷町の南部の立野北1-41-9にある下之庄第1児童遊園地は1982年度に完成したもので、この場所の用途地域は、建ぺい率60%、容積率200%、高さ制限 15 m・20 m、防火・準防火地域指定は無指定であり、用途地域内の用途制限は緩やかで、危険性が大きいとか著しく環境を悪化させるおそれがある工場、および火薬類・石油類・ガスなどの危険物の貯蔵・処理の量が多い施設を建てることは禁止(ただし特別の許可を受けて建てられる場合がある)されるが、他の建物に対する用途制限はない準工業地域のD I D区域内に位置し、面積は 621.70 m² と比較的小規模な児童公園である。三郷町の東部には第1種住居専用地域のD I D区域内に1983年度に完成した3か所の児童公園がある。その1つは1966年頃に三郷町および奈良開発株式会社ほかによって開発された夕陽ヶ丘団地の夕陽ヶ丘4-8の住民広場であり、面積は 4,283.11 m² の比較的大規模なものである。そして残



注) 1.城山台第6児童公園 2.城山台第5児童公園 3.下之庄第1児童遊園地 4.三室児童遊園地
5.三室第2児童遊園地 6.住民広場

資料) 三郷町『三郷町都市公園位置図』1万分の1 (1988年) および現地調査により作成。

図2 三郷町における第2期(1980~1984年度)の都市公園分布

る2か所は1965年頃から日本土地開発株式会社が開発した三室団地内の、三室1-2-18に位置する面積1,042.07 m²の三室児童遊園地、三室2-1-28に設置された面積259.16 m²の三室第2児童遊園地で、前者は比較的大規模であるが、後者は極小規模なものである。また、三郷町の中央部には1979年頃に興人株式会社によって開発された面積35.5 ha、一戸建住宅838戸の城山台団地内の城山台4-7-5に位置する、面積895.39 m²の城山台第5児童公園と、城山台3-2-13にある面積1,078.61 m²の城山台第6児童公園が整備され、面積の大小はあるが、ともに区画整然とした第1種住居専用地域のDID区域内に位置している(図2)。

都市公園の周囲の環境をみれば、下之庄第1児童遊園地はほぼ正方形で、北側は坂根川の谷底平野の水田であり、他の三方は中層耐火構造の町営住宅団地である。そして西高東低の緩傾斜地の標高47.0 m地点に位置している。住民広場は西側を県道椿井・王寺線が通り、すぐ南には東部自治会館・草地・新池がある。北高南低の緩傾斜地の1戸建住宅地にかこまれ、標高53.0 mにある。この住民広場は南側が底辺の三角形で、上下2段になっているが下段の部分は1枚の梅の花弁のような形の運動広場が造成されている。三室第2児童遊園地は県道椿井・王寺線を隔てて新池の南、標高48.0 m地点で、県道信貴山線の北側に近い1戸建住宅地の中にある。形は長方形の極小規模な都市公園である。三室児童遊園地は長方形で県道信貴山線の南にあり、東高西低の緩傾斜地の標高60.0 mに位置し、東・北は1戸建住宅地、南は三室自

治会館、西側は墓地である。城山台第5児童公園はほぼ菱形で城山台団地の南西部にある。また、その位置は北高南低の砂礫台地末端部の傾斜地の標高 140.0 m 地点である。したがって、南・西側は実盛川の谷底平野へと急傾斜し、北・東側は砂礫台地を整然と人工的に地形改変した1戸建住宅地である。城山台第6児童公園は三角形で城山台団地の南部にあり、城山台第5児童公園と同じく北高南低の砂礫台地末端部の傾斜地を平坦化した標高 120.0 m 地点の区画整然とした1戸建住宅地の中に位置していて、南 100 m を都市計画道路信貴山麗線が通っている。

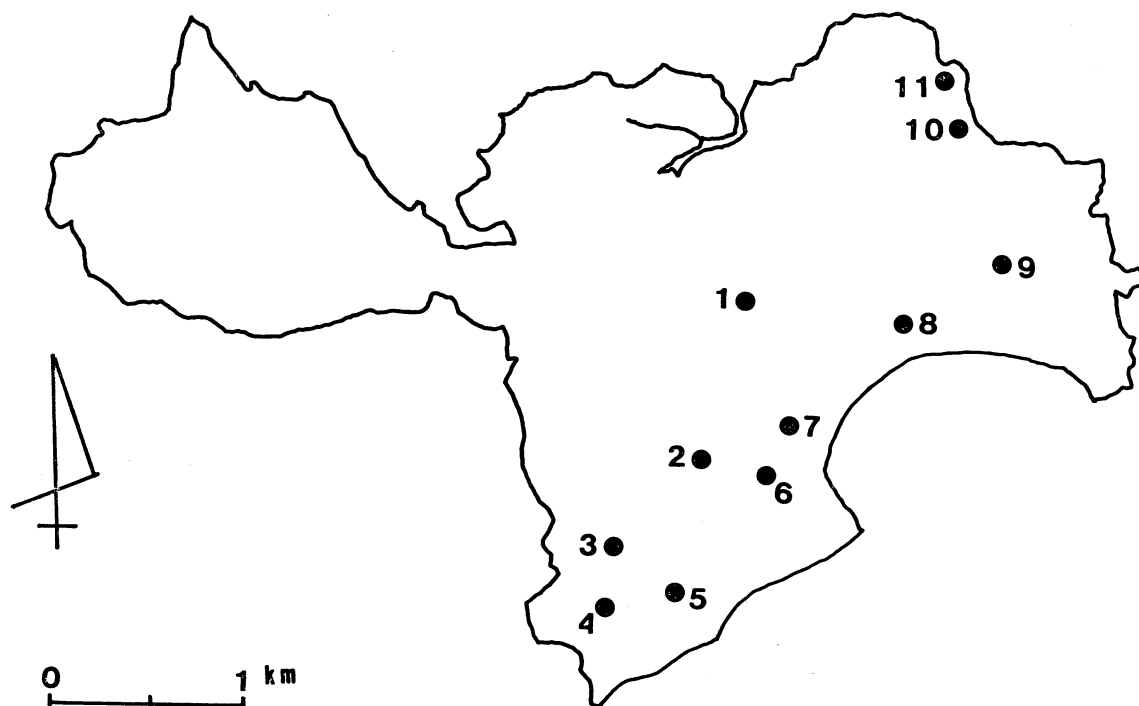
3. 第3期(1985～1989年度)の都市公園整備

1980年代後半の5か年間に三郷町では11か所の都市公園が整備された。その合計面積は 35,710.17 m²、この時期に整備された都市公園の1か所平均面積は 3,246.38 m² であり、第2期のそれより 1,883.04 m²、第1期よりも 2,223.08 m² 大きくなり、1976年度に最初の都市公園が整備された時から、10年の間に次第に都市公園の数を増し、その規模も漸次拡大傾向を示している(表1)。1985年度は6か所の都市公園が整備された。その1つは立野北1-5-4にある坂根児童公園であり、種別は児童公園に属していて、都市計画では都市化区域の住居地⁽⁸⁾域のI D I区域内にあり、面積は 254.24 m² で極小規模なものである。また、立野北1-26-12の下之庄緑地公園(カルチャー広場)も種別は児童公園で、準工業地域のD I D区域内にあって、面積は 3,190.99 m² であり、第3期に整備された都市公園の平均的規模である。立野北2-16-1の農住1号公園は児童公園であり、第2種住居専用地域のD I D区域内にあって、面積は 2,400.87 m² である。第2種住居専用地域の用途地域内の建物の用途制限は第1種住居専用地域につぐ厳しいもので、建ぺい率60%、容積率200%、高さ限度 15 m、防火・準防火地域無指定であり、先述の第1種住居専用地域内で建設が許可されるものに、兼用住宅のうち店舗・事務所などの部分が一定規模以下のもの、巡査派出所・公衆電話所・一定規模以下の郵便局、その他一定の公益上必要な建築物、病院などが建設できるものとして加えられる。そして大学・高専・専修学校・各種学校、店舗・飲食店、食品製造工場で一定規模以下のもの、火薬類・石油類・ガスなどの危険物の貯蔵・処理の量が非常に少ない施設、卸売市場・と畜場・火葬場・汚物処理場・ごみ焼却場などは当該用途に供する部分が3階以上または 1,500 m² を超えるものは建設できない地域である。立野南2-21-20の農住2号公園も児童公園であり、第2種住居専用地域にあるが、I D I区域外にあって、面積は 2,500.92 m² である。立野南2-8-22の農住3号公園も児童公園で、第2種住居専用地域のD I D区域外にあり、面積は

- (8) 建ぺい率60%、容積率200%、高さ限度 15 m、防火・準防火地域は無指定であり、用途地域内の建物の用途制限は劇場・映画館・演芸場・観覧場、待合・料理店・バー・キャバレー・ダンスホール、営業用倉庫・床面積の合計が 50 m² を超える車庫(一定規模以下の付属車庫などを除く)、作業場の床面積の合計が 150 m² 以下の工場で危険性や環境を悪化させるおそれが少ないもの、作業場の床面積の合計が 150 m² を超える工場または危険性や環境を悪化させるおそれがやや多い工場、危険性が大きい環境を悪化させるおそれがある工場、火薬類・石油類・ガスなどの危険物の貯蔵・処理の量が非常に少ない施設、およびその量がやや多い施設・多い施設などは建設できない地域である。

2,502.27 m² である。立野南3-25-33の農住5号公園も児童公園であり、第2種住居専用地域のD I D区域外にあって、面積は2,211.13 m² である。1985年度に整備された以上の6か所のうち農住1・2・3・5号の4か所は共通性が高く、規模も約2,200~2,500 m² 程度で、ともに第2種住居専用地域に位置している。

1987年度には1か所の都市公園が整備された。これは勢野西1-2-3の三郷中央公園で、種別は地区公園に属し、住居地域のD I D区域内に位置しており、面積は大規模で13,796.11 m² が完成しているが、計画決定面積は49,611.88 m² で、残る35,815.77 m² は未完成になっている。1989年度には4か所の都市公園が整備された。その1つは勢野東4-7-8の勢野東4丁目公園であり、第1種住居専用地域のD I D区域内にある面積1,937.55 m² の児童公園である。信貴ヶ丘4-1-3には信貴ヶ丘児童公園がある。この公園は面積6,149.21 m² で比較的大規模であり、第1種住居専用地域と市街化調整区域に属していて、D I D区域に隣接する位置にある。美松ヶ丘東2-9-19の美松ヶ丘第1緑地は第1種住居専用地域のD I D区域内にあり、種別は緑地と分類されるもので、面積は252.00 m² の極小規模な公園である。美松ヶ丘第2緑地は美松ヶ丘東2-4-24の第1種住居専用地域のI D I区域内にある緑地であって、面積は25.00 m² の極小規模なものである。以上11か所の都市公園は1980年代後半である第3期に整備された都市公園であり、その分布は美松ヶ丘第1緑地・美松ヶ丘第2緑地・



- 注) 1. 信貴ヶ丘児童公園 2. 農住1号公園 3. 農住2号公園 4. 農住5号公園 5. 農住3号公園
6. 下之庄緑地公園 (カルチャー広場) 7. 坂根児童公園 8. 三郷中央公園 9. 勢野東4丁目公園
10. 美松ヶ丘第2緑地 11. 美松ヶ丘第1緑地

資料) 三郷町『三郷町都市公園位置図』1万分の1 (1988年) および現地調査により作成。

図3 三郷町における第3期 (1985~1989年度) の都市公園分布

奈良県三郷町の都市公園

勢野東4丁目公園などが三郷町の北東部と東部にあり、三郷中央公園・信貴ヶ丘児童公園などは町域のほぼ中央部に位置し、残る坂根児童公園・下之庄緑地公園（カルチャー広場）・農住1号公園・農住2号公園・農住3号公園・農住5号公園など6か所は町域の南部寄りの地域と南部にある（図3）。

第3期に整備された都市公園の周囲の環境をみれば、町域の北東部の美松ヶ丘第1緑地は第1期に整備された美松ヶ丘児童公園の東に接続する位置にある。それは街路樹と歩道をもつ幅員16mの都市計画道路信貴山麓線の南側に沿う東西に細長い北高南低の斜面を活用したもので、その東端は平群町との境界線のすぐ近くまで延びる木立であって、街路樹の緑との調和を保持している。しかし三郷町側は完成しているが、平群町側は都市計画道路信貴山麓線の工事が中断されているために、この道路・街路樹・木立がつくる美しい都市景観が断絶していることが惜しまれる。美松ヶ丘第2緑地は美松ヶ丘第1緑地の南方約300m、平群町との境界線から70～80m程の場所にあり、東高西低の急斜面に沿って標高59.0～65.0mの位置に北西から南東方向に延びる100m前後の間の木立である。周囲は急斜面を階段状に改変した閑静な1戸建住宅地となっている。勢野東4丁目公園は信貴川の谷底平野の東縁で、近鉄生駒線勢野北口駅の南東200mに位置し、西側は水田・普通畑、南方を県道王寺・三郷・斑鳩線が通り、北側は町道東谷線に接していて、東側には空地と耐火構造建築物がある。標高は40.0mで全体は菱形であるが南部の一角が欠け、そこに勢野地域し尿処理場がある。信貴ヶ丘児童公園は県立信貴ヶ丘高校の東側の比高25.0m程の急斜面の下に隣接している。標高103.9～107.0m、西と南の辺は直角に交わる直線であるが、他の辺は地形的制約により屈曲している。北と東側は若干の空地を混えた1戸建住宅地であり、南側は歩道と片方に街路樹をもつ都市計画道路の坂道（東信貴山ケーブル跡地）を隔てて小高い針広混交樹林地となり、その南には日養谷下池がある。三郷中央公園は龍田運動公園について、三郷町で第2番目に大規模な都市公園となる計画であるが、先述のように未完成の地区公園である。その計画地域の位置は近鉄生駒線信貴山下駅の東方で、県道王寺・三郷・斑鳩線以南の一带とも考えられるが、1993年11月現在ではその大部分が水田であり、完成しているものはスポーツセンターとウォーターパークなどの建築物を中核とする計画地域南部の一部分に限られている。計画地域の東寄りには三軒屋川の谷底平野がひらけ、南限は大和川右岸の人工堤防内側であり、計画地域の標高は約36.0m前後である。計画地域の形状は東部の東西に長い長方形と西部の南北に長い長方形を廊下で結び、さらに西方に向かってコミュニティーセンター・老人福祉センター・保健センターなどの北側に100m余の突出部分がある。三郷中央公園の環境は良好であり、三郷町役場をはじめとして、鉄道線・バス路線・都市計画道路・県道・近隣商業地域、そしてコミュニティー活動、福祉・保健・金融・農協ほかの諸施設があり、王寺町への近接性も高く、交通・行政・公共・サービスなどの中心地的機能の集中地域に隣接している。

坂根児童公園は町立三郷中学校の西側にある極小規模な児童公園である。坂根自治会館や普

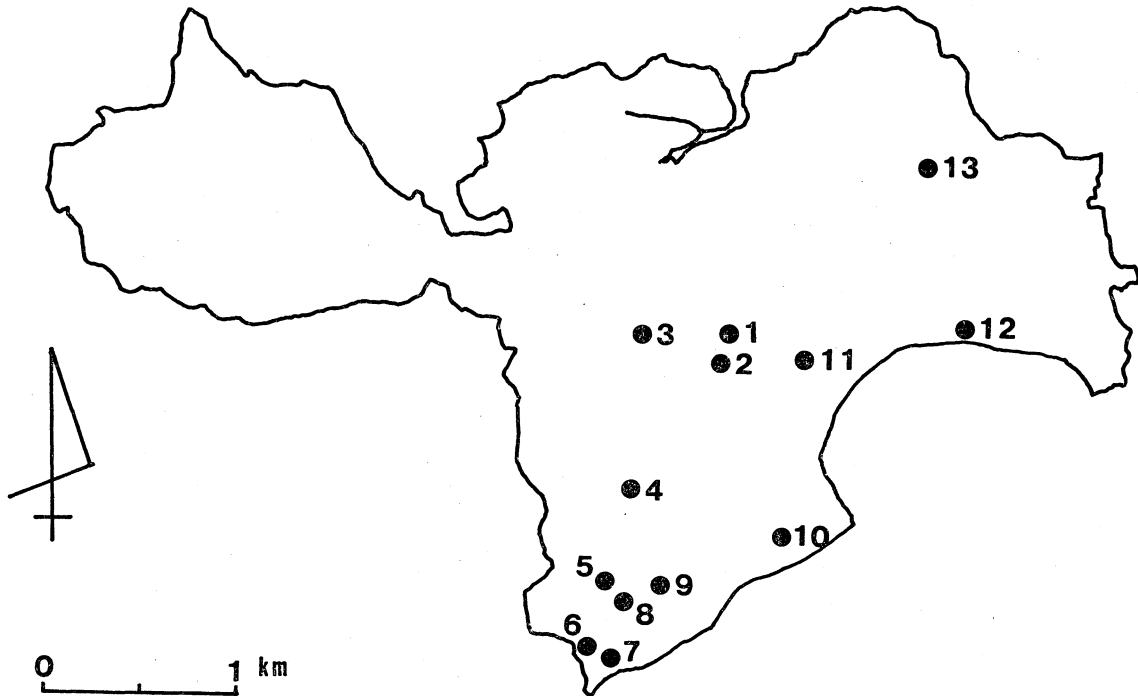
通畑と市街地の民家などの中にあり、長方形で北高南低の傾斜地の標高 50.0 m 程の地点に位置している。下之庄緑地公園（カルチャー広場）の北側は坂根川の谷底平野の水田が広がり、他の三方は中層耐火構造の町営住宅団地である。標高は約 49.0 m でほぼ正方形の児童公園であり、規模は第 3 期に整備された都市公園のほぼ平均的規模のものである。農住 1・2・3・5 号公園はいずれも農住団地にある。農住団地は 1981 年度に立野農住土地区画整理組合が開発した大規模なもので、面積 65.9 ha、1 戸建と中層集合住宅 1,821 戸からなり、その中心は三室山コープタウンであって、その中だけでも 6 か所のプレイロット play lot や庭園があるが、それは開発主体が設置したものであり、本研究の対象である都市公園には該当しない。さて、農住 1 号公園は児童公園に属し、その中に 4 か所の庭園があり、東西方向に長辺をもつ長方形である。周囲は 1 戸建住宅地であるが、西側の宅地造成地には家屋が建てられてない空洞化現象がみられ、その西方は西高東低の畑地や棚田である。標高は 64.0 m 前後に位置し、農住 1 号公園の南方には辻堂自治会館や立野公民館などがある。農住 2 号公園はほぼ正方形で幅員 9 m の歩道をもった都市計画道路関屋川線の沿線にあり、北高南低の斜面を改変した 1 戸建住宅地の中の標高 60.0 m 程の地点に位置する児童公園である。農住 3 号公園は正方形に近い長方形の児童公園で、三郷駅の北西方 150 m、標高 43.0 m 地点に立地し、やすらぎの小径の東側に位置している。周囲は近隣商業地域であり、中層耐火構造の建築物が多いが空洞化現象もみられる。北方 100 m には中層の農住記念会館がある。農住 5 号公園は三室山東麓の谷口に位置する舟形の児童公園であり、標高 50.0 m 程の地点で、西側は三室山の針葉樹林、東側はかなりの空洞化現象がみられる 1 戸建住宅地である。三郷駅から西方 500 m に位置するが、三室山の濃い緑を背景にして、住宅地内の町道はあるが、県道・都市計画道路からは 300~400 m 程離れており、周囲は自動車などの通過交通が全くなく、人影もまばらで静寂さを感じる環境である。

4. 第 4 期（1990~1993 年度）の都市公園整備

第 4 期は最近の 4 か年間であり、第 1~3 期よりも 1 年間だけ短い期間である。しかしこの時期には町域内に 13 か所の都市公園が設置され、その合計面積は 79,002.04 m²、1 か所平均都市公園面積は 6,077.08 m² となって、第 3 期のその約 2 倍、第 1 期の 6 倍近くに大規模化が進行し、三郷町では過去において最も都市公園整備が旺盛な時期である（表 1）。町域の東部は比較的早期から都市公園整備が進められた地域であり、既に 10 か所が設置されていたが、さらに第 4 期にも 2 か所が増設された。その 1 つは 1991 年度に設けられた美松ヶ丘西 1—9—21 の美松ヶ丘第 1 児童公園であり、これは第 1 種住居専用地域の D I D 区域内の児童公園で、面積 3,352.58 m² である。他は大和川第 2 緑地で、勢野の大和川右岸の河川敷にあり、用途地域は市街化調整区域の I D I 区域外に位置し、計画決定面積は 131,000.0 m² でかなり大規模な地域におよぶが、1991 年現在のところ約 28 分の 1 程が完成しているに過ぎず、歩行者専用の若草橋から、王寺町と三郷町を結ぶ重要な交通路である明治橋間の約 300 m 程の河川敷

奈良県三郷町の都市公園

に完成している緑地の面積は 4,737.86 m² にとどまっている(1993年11月)。しかしこの大和川第2緑地計画が実現すれば、王寺町との境界をなす 4,000 m におよぶ大和川河畔の水辺景観は美しく一変するであろう。第4期の三郷町の中央部には1991年度に4か所の都市公園が整備された。それらを東から順にあげれば、住居地域のD I D区域内に設置された城山台1—2—5の城山台第1児童公園(面積1,559.30 m²)、城山台2—5—5の第1種住居専用地域のD I D区域内に設置された面積921.03 m²の児童公園である城山台第8児童公園、城山台2—1—2の第1種住居専用地域のD I D区域内に設けられた城山台第7児童公園(面積10,493.20 m²)、そして西端の第1種住居専用地域のD I D区域内の城山台5—10—7に設置された、面積 2,004.13 m² の児童公園である城山台第3児童公園などである。三郷町の南部には7か所の都市公園整備がなされた。そのうち、下之庄第2緑地公園は1990年度に立野南1—5—1に完成した。面積は 1,930.54 m² で、準工業地域のD I D区域内にある児童公園である。1991年度には立野北2—31—2の第2種住居専用地域のD I D区域外に面積 36,180.1 m² の龍田運動公園が設置された。これは1987年度に一部完成した三郷中央公園を凌ぎ町域内で最も大規模なもので、種別は地区公園である。農住1・2・3号の各緑地はいずれも1990年度に農住団地内の第2種住居専用地域のD I D区域外に設けられた緑地である。農住1号緑地は面積 939.15 m² の小規模なもので立野南3—28—33にあり、農住2号緑地は面積 2,387.41 m² で



注) 1.城山台第8児童公園 2.城山台第7児童公園 3.城山台第3児童公園 4.龍田運動公園 5.農住2号緑地 6.農住1号緑地 7.農住4号公園 8.農住3号緑地 9.やすらぎの小径 10.下之庄第2緑地公園 11.城山台第1児童公園 12.大和川第2緑地 13.美松ヶ丘第1児童公園

資料) 三郷町『三郷町都市公園位置図』1万分の1(1988年)および現地調査により作成。

図4 三郷町における第4期(1990~1993年度)の都市公園分布

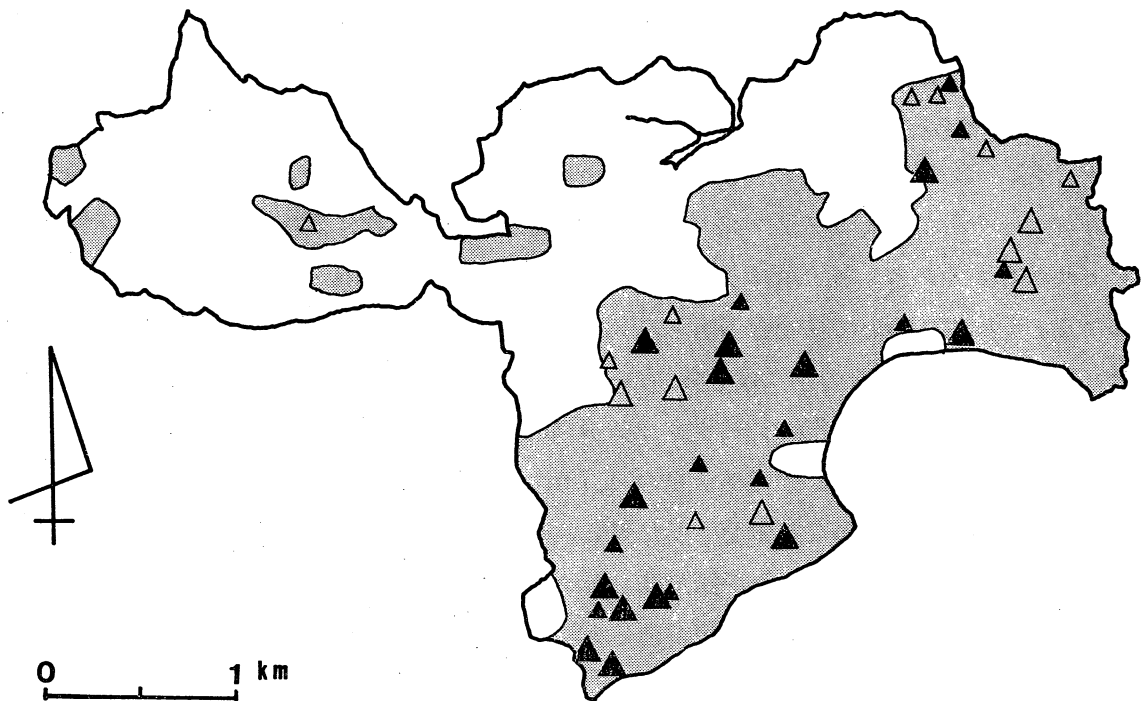
立野南3—23—10にある。そして農住3号緑地は面積 3,891.21 m² で立野南3—21—13に位置している。また、1991年度には立野南3—11—51に農住4号公園が設置された。これは第2種住居専用地域のD I D区域外に設置された面積 4,735.37 m² の児童公園であり、そのうち計画決定面積は 1,590.83 m²、計画決定区域外が 3,144.54 m² であって、66.41%は計画区域外に広がっている。1990年度に完成したやすらぎの小径は緑地に属し、第2種住居専用地域および一部は近隣商業地域を含むD I D区域外に位置する、面積 5,870.19 m² の立野南2—9—22に設けられた遊歩道である(図4)。

第4期に整備された13か所の都市公園のうち、大規模な地区公園の事例として龍田運動公園を、そして緑地の事例としてはやすらぎの小径をあげて、その主な施設・樹木などをやや詳述すると次のとおりである。(事例1) 龍田運動公園は街路樹と歩道のある幅員 12 m の都市計画道路竜田線を隔てて龍田大社の北西に位置し、北西から南東方向に長辺をもった矩形のグラウンドを中心として構成されている。北西部に楕円形で水面標高 81.49 m の平ノ池がある。その周囲は草地であるが南岸にはポプラとクスギの木立があり、グラウンドと平ノ池の間には比高 2.6 m の北西から南東へ下る急斜面があり、その上段に標高 86.67 m の草地が広がっていて、草地と急斜面の境界に14本のポプラが並んでいる。そしてその東端にマツが1本ある。グラウンドの標高は平均 84.0 m 前後であり、そこにはバックネット・ダックアウト(2か所)・手洗場・時計台・日陰棚(2か所)があり、北西側にイチョウ5本、バックネット裏にはマツ2本・サクラ3本・タイワンスギ2本、グラウンドの南東側にはサクラ14本とムクゲ2本が植えてある。グラウンドの西側はアカマツの木立、南西の標高 80.0 m 程の地点にはテニスコート2面とベンチ2個がある。グラウンドへの入口右側はシュロ・ケヤキ・クリ・キンモクセイ・モミジ・マツ・サクラなどに囲まれて2台のシーソーとウンテイなどの遊具があるプレイロットが造られ、入口左側にも10本のマツ並木の西側の生垣の中にスベリ台・ブランコ・鉄棒などのあるプレイロットがある。そしてマテバシイ・ムクゲ・トベラ・シラカシ・アキニレ・ヒマラヤスギなどの 3.0 m 以上の高木と、アオキ・アジサイ・キョウチクトウ・ササ・サツキ・バラ・レンギョウ・ユッカほか10種余の 3.0 m 以下の低木の生垣があり、緑の多い都市公園を形成している。(事例2) やすらぎの小径は幅員 16 m の都市計画道路信貴山麓線の東側沿線にはほぼ南北方向にのびる約 600.0 m のカラーアスファルトの遊歩道であり、ステンレス支柱水銀灯 10基・木製ベンチ9台・プラスチック製ベンチ1台、修景施設として平均幅 1.7 m の人口河川がある。植栽面積は 2,874.7 m²、その割合はやすらぎの小径の約49%を占める。樹木のうち 3.0 m 以上の高木は常緑広葉樹が225本、落葉広葉樹が134本、常緑針葉樹が2本で合計361本であり、樹高 3.0 m 未満の低木のうち常緑広葉樹は148本、落葉広葉樹は24本で合計172本である。総計533本のうちで最も多い樹種はネガミモチの145本であり、ついでシダレヤナギ35本、カナメモチ33本、シラカシ31本、アキニレとツバキが各29本、ウラジロカシが27本などは比較的多数植えられている。少ない樹種はクチナシ・シダレザクラ・マンサク・セイヨウツゲなど

であり、各1本である。また、クスノキ・サンシュユ・ナワシログミ・マツなどは各2本が認められた。やすらぎの小径の南端にはサクラ・ハギ・ツバキ・ピラカンサ・ヤマボウシ・クチナシなどがみられ、北上するにしたがってサツキ・サクラ・サザンカ・シダレヤナギ・ネズミモチ・アラカシ・アベリア・イチョウ・カナメモチ・ウバメガシ・マテバシイ・ケヤキ・ウラジロガシ・モチノキ・ヒラドツツジ・ヤマモモなどが注意をひく、北端が近づくとハギ・アキニレ・サザンカ・クスノキ・ネズミモチ・ウラジロガシ・ユズリハ・ウツギなどが目につくようになる。全樹木について株物をみると、常緑広葉樹が 357.4 m²、落葉広葉樹が 72.2 m²、合計 429.6 m² となり、その中で最も多いのはウバメガシの 120.0 m² である。ついでサザンカが 88.2 m²、トベラが 43.8 m²、カナメモチが 40.3 m²、ヒラドツツジが 30.0 m²、ウツギが 28.5 m² などとなる。少ないのはアオキの 1.7 m²、イヌツゲの 1.8 m²、アセビの 9.1 m² などである。このように豊かな並木をもった美しい遊歩道は都市の安全性とともに快適性を高め、空気を浄化し気温を緩和する。わが国では、かかる遊歩道を三郷町のような小都市で見かけることは稀であり、都市景観的にも価値がある大切な緑地空間であろう。

III. 都市公園分布と都市化地域

三郷町の1993年現在における都市公園分布を都市計画の用途地域との関係でみれば、第1種住居専用地域に19か所、50.0%が位置している。これは都市計画において最も区画整然とした高級住宅地イメージをもつ地域のアメニティを一層高める効果をもっている。つぎに都市公園が多い地域は第2種住居専用地域であり、9か所、23.7%が設置された。そして市街化調整区域・住居地域・準工業地域は各3か所、各7.9%である。最も少ないのは第2種住居専用地域および一部が近隣商業地域に属するもので、1か所、2.6%であるが、これはやすらぎの小径であり、南端が少し近隣商業地域にかかるが、大部分は第2種住居専用地域内にあるから、例外的存在といえる。都市公園分布と人口集中地域との関係は、D I D区域内にある都市公園が27か所、71.1%であり都市化の度合の高い地域に都市公園密度も高い。そしてD I D区域外には10か所、26.3%がある。残る1か所はD I D隣接地にあり、むしろ例外的存在である。また、D I D区域内の都市公園面積は合計 63,626.68 m² で、三郷町の全都市公園面積の48.5%に当たり、1か所平均面積は 2,356.54 m² である。一方、D I D区域外のそれは 61,302.72 m²、46.8%、1か所平均面積は 6,130.27 m² である。したがってD I D区域外の都市公園は、人口集中度が低く、地価も比較的廉価な地域にあり、D I D区域内のそれよりも用地取得が容易なこともあって、1か所当たりの規模は大きいのであろう。都市公園数を行政区でみれば、立野南に10か所、城山台に8か所、立野北には5か所があつて、これらの行政区には比較的多く、他の行政区は各1～3か所の都市公園をもつにとどまっている。都市公園面積は立野北が42,647.87 m² と最大であり、ついで 27,294.79 m² の立野南、21,415.14 m² の城山台、13,796.11 m² の勢野西などが比較的都市公園面積が広く、信貴南畑・東信貴ヶ丘などの行政区



注) ▲ 第1期(8か所) ▲ 第2期(6か所) ▲ 第3期(11か所) ▲ 第4期(13か所)
 アミは都市化地域

資料) 三郷町『三郷町都市公園位置図』1万分の1(1988年)および現地調査より作成。

図5 三郷町における1993年度の都市公園分布と都市化地域

のそれは狭い。都市公園分布を地域別にまとめれば、中部地域には4か所あり、合計70,212.22 m²、それが全都市公園面積に占める割合は53.6%に達する。ついで東部地域は12か所、28,748.74 m²、21.9%であり、南部地域は10か所、27,294.79 m²、20.8%の都市公園が設置されている。しかし針広混交樹林に恵まれ、人口集中度も小さく、市街化調整区域である西部と北部地域には比較的都市公園が少ない。

都市化は三郷町の南部と中・東部を中心にして展開し、都市化地域は町域のほぼ半分を占めている(北島, 1994)。都市化地域は標高200 m以上の西部地域を除き、都市計画上の市街化地域とはほぼ一致するが、市街化調整区域のD I D区域の標高300 m地点に位置する南畑児童公園(85.00 m²)と、市街化調整区域内のD I D区域内の標高50 m地点に位置する馬場児童遊園地(326.60 m²)を除けば、他の総ての都市公園は市街化区域にあり、全部の都市公園が都市化地域内に分布している(図5)。都市公園の設置数およびその面積が最も多い中部地域はほぼ1970年代の住宅地開発を契機として都市化した。その中心は1979年度に町域中央部の第1種住居専用地域内に完成した城山台1・2・3・4丁目の面積35.5 ha、1戸建住宅838戸の城山台団地であり(北島, 1993)、この住宅団地内の都市公園は8か所、21,415.14 m²である。そして1991年度には町域内で最大規模をもつ地区公園の龍田運動公園も完成し、三郷町中部地域の中心的都市施設を備えることにより、この地域の都市化と都市公園整備を飛躍的に進展さ

奈良県三郷町の都市公園

せた。東部地域の住宅地開発による都市化は1960年代に始まり、三室は遅れて1983年度になるが、美松ヶ丘西・美松ヶ丘東・東信貴ヶ丘・夕陽ヶ丘などの住宅団地では、1976年度になると既に児童公園を中心として都市公園整備を完成したのも多数あり、比較的早期よりこの地域の都市化に伴う都市公園整備に着手していた。また、東部地域について都市公園の設置数とその面積が大きい南部地域は1980年代に住宅地開発が進展し、面積 65.9 ha, 1,821戸の1戸建住宅と中層集合住宅からなる農住団地（北畠，1993）も、その都市化とともに立野南の下之庄第2緑地公園・馬場児童遊園地・農住2・3・4・5号公園・農住1・2・3号緑地、そしてやすらぎの小径というように1976～1990年度にかけて、着実に都市公園整備を進めてきた地域であった。

IV. ま と め

三郷町における1975～1993年度間の都市公園整備過程と分布を調査・検討した内容を要約して結論とする。

第1期（1975～1979年度）に整備された都市公園は8か所であり、その中の6か所は第1種住居専用地域のD I D区域内にある。そして残る2か所は市街化調整区域のD I D区域内に1か所、D I D区域外に1か所位置している。第2期（1980～1984年度）には6か所の都市公園が整備された。その中の5か所は第1種住居専用地域のD I D区域内にあり、他の1つは準工業地域のD I D区域内にある。第3期（1985～1989年度）は11か所の都市公園が整備された。その中の3か所は第1種住居専用地域のD I D区域内に、3か所は第2種住居専用地域のD I D区域外、そしてD I D区域内に1か所が造られた。また、2か所は住居地域のD I D区域内、1か所は準工業地域のD I D区域内、残る1か所は第1種住居専用地域および市街化調整区域のD I D区域に隣接する位置に設けられた。第4期（1990～1993年度）は13か所に整備されたが、その中の5か所は第2種住居専用地域のD I D区域外、4か所は第1種住居専用地域のD I D区域内にそれぞれ設置された。そして準工業地域のD I D区域内、第2種住居専用地域および一部近隣商業地域にかかる位置のD I D区域外、住居地域のD I D区域内、さらに市街化調整区域のD I D区域外などにおおの1か所ずつが設置された。すなわち、第1種住居専用地域とD I D区域を中心にして都市公園整備が進展したのである。

地域別の都市公園面積は中部地域に53.6%が集積し、ついで東部と南部地域に約20%余が集中している。一方、混交樹林の緑が豊富であり、市街化調整区域が卓越していて、都市化も緩やかな西部地域と北部地域は都市公園の数が少なく、その面積を合計しても全都市公園面積の4%未満に過ぎない。三郷町で最大規模の都市公園は1991年度に完成した龍田運動公園（36,180.1 m²）である。これはグラウンド・バックネット・ダックアウト・時計台、そして日陰棚2か所、テニスコート2面、児童公園2か所、草地・池、アカメガシワほか67種の高木とアオキほか15種の低木など合計約100本余の樹木が植えられた地区公園である。また、三郷町で最も細長い

都市公園は1990年度に完成したやすらぎの小径 (5,870.19 m²) である。長さ約 600 m のカラーアスファルト歩道で、10基の水銀灯、ベンチ10台・人工河川、そしてアカメガシワほか90余種の高木とアオキほか20種の低木など合計533本の樹木、ウツギほか13種の株物 429.6 m² が植えられた美しい遊歩道の緑地である。また、町域内38か所 (131,078.61 m²) の都市公園の約半分は区画整然とした1戸建住宅からなる第1種住居専用地域にあり、約4分の1は1戸建住宅と近代的中層集合住宅からなる第2種住居専用地域にあって、三郷町の都市的発展に安全性と快適性を加え、その都市景観はケヤキ・トウカエデ・モミジバフウ・クスノキ・ナンキンハゼなどを場所によって植えわけた街路樹と歩道をもつ都市計画道路とともに、このまちの小さくて美しいアメニティ都市としての地域的特性を形成している。

本研究にあたり、三郷町役場の方々には貴重な資料とご意見を頂きました。現地調査では住民の皆様の親切なご協力をえました。深く感謝いたします。また、巡検は奈良産業大学の基礎演習（経済地理学）の学生達と一緒に実施しました。楽しい青春の思い出となることを願っています。

文 献

北畠潤一「奈良県三郷町の住宅地化」（『産業と経済』第7巻第5号、1993年3月）61～75ページ。

北畠潤一「奈良県三郷町の都市化」（『産業と経済』第8巻第5号、1994年3月）19～35ページ。

千歳壽一「わが国の都市計画学における土地利用研究」（『地理学評論』第60巻（Ser. A）第1号、1978年1月）20～39ページ。

都市計画法制研究会編『都市計画法令要覧』ぎょうせい、1982年、第2節公園「都市公園法」905～906ページ。

中島直子「保存樹からみた市街地の樹木景観に関する研究」（『地理学評論』第59巻（Ser. A）第8号、1986年8月）480～494ページ。

橋詰直道「東京都における都市公園の発達過程とその分布構造」（『地理学評論』第53巻第3号、1980年3月）189～202ページ。

橋詰直道「千葉県八千代市における都市化と緑地保全政策」（『地理学評論』第56巻第5号、1983年5月）345～355ページ。

橋詰直道「千葉県下の自治体における緑地保全政策の新たな動向」（『地理学評論』第60巻（Ser. A）第3号、1987年3月）170～180ページ。